

堺若刃会のネットワークにみる 伝統産業における弱い紐帯の役割

社23-1562 神田瑠香
社23-1631 長岡優芽
社23-1645 樋口雄太
社23-1720 吉村和夏

1

序論：レポートの目的と問い

- 本レポートの目的は、堺市における刃物産業の特徴と課題を明らかにすることである。
- 特に、分業構造や歴史的背景を踏まえながら、堺若刃会を中心に現在の産業のあり方を考察する。
- 問い
堺の刃物産業は、どのような強みを持ち、どのような課題を抱えているのか。
堺若刃会がもたらす意義

2

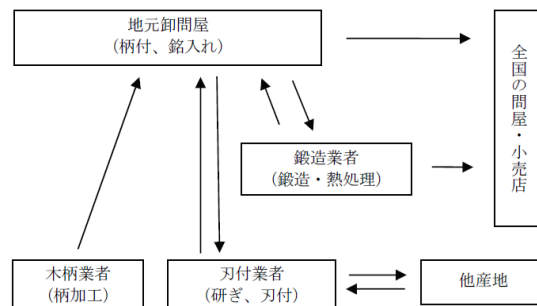
堺包丁の起源

- ・安土桃山時代には「おかた包丁」と呼ばれたたばこ包丁や、岩をも割るほど堅牢な石割包丁が作られており、これらが堺包丁の起源とされている。
- ・流通量の増加に伴い偽物が出回るようになった。そこで正規品の証として「堺極（さかいきわめ）」の刻印が包丁に施され、幕府の力によって全国へ流通したことで、堺包丁は日本各地にその名を広めることとなった。

3

堺包丁を支える分業制

図3 堺刃物業の生産・流通構造



(出典：伝統的工芸品産業振興協会「平成19年度伝統的工芸品産地調査・事業診断報告書―堺打刃物―」、川村晃正(2010)より引用)

4

関の刃物の産業構造



出典：公益財団法人岐阜県産業経済振興センター(2022)「刃物」

- ・ステンレス製の刃物が主流
- ・プレス加工、レーザーカットがメイン
- ・関では鍛冶屋がほとんど存在しない

5

包丁の種類と堺包丁の特徴

・片刃包丁

堺包丁の代表的な種類。江戸時代・元禄年間に堺で開発されたもので、片側のみを研ぐ構造を持つ点が特徴である。左利き用と右利き用があり、食材や用途によって使い分けられてきた。

・両刃包丁

家庭用包丁や洋包丁に多い。両側から葉をつける一般的な形状であり、扱いやすい。

6

刃物産業の技術継承

- 堺の刃物産業は歴史的に職人技術によって支えられてきた。

職人技能の継承

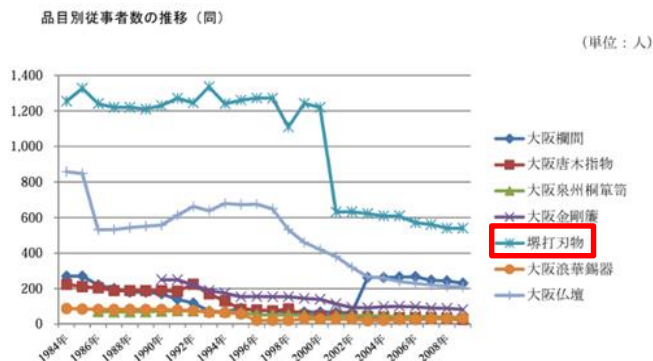
- 親から子へと受け継がれる世襲制
- 親方のもとへ弟子入りし、修行する徒弟制

→ 縦の職人関係（縦のつながり）
問屋の役割が重要

7

課題①：後継者不足

- 職人が減少している。



北出 芳久（2013）産研論集第25号 大阪の伝統的工芸品産業の現状と課題より引用

8

課題①：後継者不足

- 数十年前は30人以上存在した堺の鍛冶職人も現在は10数人に減少（2024年）
- 20年後は5人程度になっているのではない

後継者育成が必要

9

後継者育成

後継者育成の課題点

- 技術習得に時間がかかる点が障壁となっている。
- 賃金等の支払いへの負担
- 条件に見合う人が見つからない
→後継者育成の仕組みづくりが求められている。

10

課題②：高齢化と将来展望

- 職人の高齢化が進行している。
→ 伝統的工芸品産業に従事する職人の70%が70~80代（2017年 経済産業省より）
- 育成・観光・海外展開を通じた持続可能性が重要である。
- 技術消失のリスクが高まっている。

11

若刃会

これまで
縦のつながり
→ 問屋の役割が重要だった
（※とりまとめ・調整役として）



問屋の役割の変化
調整役⇒新たな分業形態の創造へ

12

若刃会とはなにか

- 堺打刃物の未来を考える若手団体
- 横のつながり、技術交流、勉強会
- 他産地とのネットワーク
- 組合の下部的な位置づけ

13

若刃会と組合の違い

- 組合 = 社長中心の縦の組織
- 若刃会 = 現場職人の横のネットワーク
- 若手主体の活動

14

若刃会を作った経緯

- 職人同士の交流不足
- 未来への投資
- 業界が追い風の今だからこそ設立

15

普段の活動

- 問屋：刃付け屋：鍛冶屋 = 2 : 1 : 1
- 分業の違う職種が参加
- 他産地見学
- 勉強会
- 刃物祭りの手伝い
- 月 1 回の例会

16

横のつながりで変わったこと

- 他社職人との比較が可能
- 相談しやすい環境
- 新しい視点の獲得

17

弱い紐帯の強さ

- 弱い紐帯→普段あまり関わらない人とのゆるいつながり (例) 他社・他産地の職人、海外関係者など
新しい情報・異なる価値観が入る
イノベーションのきっかけになる
- 強い紐帯 (師匠・同じ会社・家族的関係) との違い
安定はあるが視点が固定化しやすい

18

職人を増やすことはあったのか

- 直接的な効果はまだ小さい
- 交流の場としての価値が大きい
- 満足度も向上

19

従来の産業構造との比較

(良い点)

- 閉鎖性の緩和
- イノベーションの可能性
- 若手主体の発信

(悪い点)

- 情報共有の限界
- 組合との役割の重複
- 競合関係の難しさ

20

後継者育成は可能か

- 若手のコミュニティ形成
- 相談相手が増える
- 小規模工房の孤立を防ぐ

21

マーケティングと 海外需要

- 外国人需要の拡大
- SNS発信の重要性
- 職人ブランド化

若刃会の 今後の課題

- 資金調達
- 発信力
- 販売スキーム

22

結論:若刃会の意義

- 横のつながりによるイノベーション
- 業界の未来への投資
- 弱い紐帯の価値

23

参考文献

- 樋口博美 (2009) 伝統的地場産業におけるモノと技能をめぐる社会関係—堺刃物業を事例として—
- 北出 芳久 (2013) 産開研論集第25号 大阪の伝統的工芸品産業の現状と課題
- 公益財団法人 (2022) 堺市産業振興センター 伝統産業ブランド化等に関する実態調査 報告書
- 川村晃正(2010). 「伝統的産業・堺刃物業の昔と今」 『専修大学社会科学研究所月報』 560-561巻, pp.52-80.
- 森岡孝文(2016). 「関市刃物産地の形成,衰退,再生」 『経営情報学部論集』 30巻, 1・2号, pp.125-142.
- 堺市立図書館 「資料でみる『ものづくり・堺』のあゆみ」 https://www.lib-sakai.jp/kyoudo/kyo_digi/monodukurisakai/monodukuri_hotyo.htm
- (2025年12月19日確認)
- 公益財団法人岐阜県産業経済振興センター(2022)「刃物」
- PR TIMES STORY プロ仕様の堺包丁を一般向けに開発。G7大阪・堺貿易大臣会合における記念品に選定されるまで。20年後たった5人になる鍛冶師減少に歯止めをかけるべく4代目社長が試みる「伝統産業への科学的アプローチ」とは。
https://prtimes.jp/story/detail/Qbpvy5C7JJx?utm_source=chatgpt.com
- 竹下智 (2024) 野村資本市場クォーターリー 2024年秋号 特集3：芸術と金融 日本の工芸「KOGEI」を世界に一発見される日本から売り込む日本へ
- 田中圭・能渡真澄・沢宮容子(2025) 「弱い紐帯がウィルビーイングに与える影響」 『Japanese of Applied Psychology』 第50巻第3号

24